

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木県支部会報 2023.03.31

NO.38

- 理事長より「生徒指導提要12年ぶりの改訂など」
- 第40回支部研究発表会（コメンテーター：伊澤 裕 氏）
- 第13回とちぎ教育相談カフェ「職業検査を用いた面接相談」講師：馬場友治 氏
- 第33回中央研修会レポート
- 精神医学特別講座「ネット・デジタル社会と共存するために」講師：那須烏山市七合診療所 本間真二郎 氏
- 冬季特別研修会「子ども達のゲーム・SNSの世界」講師：有限会社橋本屋 伊藤夏美 氏
- 栃木県支部事務局からのお知らせ

○ 理事長より 「生徒指導提要12年ぶりの改訂」 柴 一彌

平成22年に初めて作成して以降、昨年12月に12年ぶりに改訂された「生徒指導提要」が文科省より公表されました。「生徒指導提要」とは、小学校から高等学校階までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法について、時代の変化に即して網羅的にまとめ、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として作成したものです。

中央研修会（1/8オンライン）ではこの改定に関わった前会長栗原氏が改訂ポイントを次のように示しています。

- ①課題解決志向から発達支持志向へ…児童生徒に向き合う基本的な立ち位置を示し、児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、その発達の過程を学校や、教職員がいかにか支えていくかという視点に立つこと。
- ②子供の多様性への言及…発達障害、精神疾患、健康課題、支援を要する家庭状況（ヤングケアラー、経済的困難、非虐待、特定妊婦、性的マイノリティ、外国人児童生徒など）の理解と対応。
- ③臨床志向から教育志向へ…個別の専門家（SC/SSW）の限界。集団の専門家である教師がチーム同僚性を高めることで効果を上げるべき。心理福祉の専門スタッフ（SC/SSW）を教育活動の中に位置づけ連携・協同の体制を充実させる。
- ④児童の権利に関する条約を前面に…命を守られ成長できること、子どもにとって最も良いことは何か考えられること、意見表明し参加できること、差別のないこと。

また、会報紙第70号で春日井会長がこれを学校現場で生かしていくためには、次の4点が大切と説明しています。

一つには、大人が決めた枠や都合ではなく子どもの目線に立ってその生活、感情、願い受けとめようとする対話的、共感的な姿勢と関わりを大切にしていくこと。二つにはその中で子どもが自分と安心して向き合い、自己決定していくプロセスを応援していくこと。三つには子どもの主体性と協同性を両輪にして子供どうしが繋がって成長していく学級、学校というコミュニティを再編・創造していくこと。四つには、そのためには教師が自分と向き合い、同僚に相談したり、葛藤や気づきを共有できたり、学校組織として同僚性を大切にしていくこと

ところで1月30日の通勤途中、車中のラジオで衆議院の「来年度予算集中審議」を聞いていると、質問者の元文科大臣が、いじめや不登校、貧困家庭の増加を踏まえ、「学校には心理に詳しいスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーという心理や福祉などの専門スタッフが常時いるわけではありません。心理や福祉について専門知識を持った教師が常にいることによって子供たちが必要な時にいつでも相談できるような体制が必要だと思います。教科のスキルをしっかり持ってもらうことももちろん大切ですが一定程度勉強すればこういう心理のことを知っている先生を増やすことができるのではないかと…」と総理に見解を求めるといった場面がありました。答弁に立った総理から「ご指摘のとおり心理等の分野の専門性を身につけられる人材、これが日々子供たちの教育に当たれることは重要なポイントになります。そのような教員養成を制度的に改革を進めていくことを考えていきたいと思っております」と耳を疑うようなやり取りがありました。

本学会はこのような教員を「相談教諭」と称し、授業が軽減され、担任を持たない人材として配置を要求しています。「生徒指導提要改定」と「国会のやり取り」が偶然とは思えないこのチャンスを私たちは現実味ある好機ととらえ、近い将来現役学会員が「相談教諭」に抜擢されるよう新しい支部活動を模索していきましょう。

○ 第13回とちぎ教育相談カフェ「職業検査を用いた面接相談」

講師：馬場友治 氏

第13回とちぎ教育相談カフェが、令和4年11月26日（土）の午後、馬場友治氏を講師に「職業検査を用いた面接相談」というテーマで行われました。キャリア教育と進路指導がどう教育相談とつながっていくかという内容でした。まさしく教育相談が Guidance and Counseling の邦訳である意味がわかりました。教育相談のなかに自分の人生をどう方向付けていくかという意味があることをあらためて考えさせられました。その中で、「自分を知る」ということの重要性が述べられて、その手段である様々な検査が紹介されました。



(文責：吉川修司)

○ 第33回中央研修会レポート

Bコース「教室マルトリートメント」川上康則先生（東京都立矢口特別支援学校）

まず、私は恥ずかしいことながら、「教室マルトリートメント」という言葉さえ知らなかった、と告白することから始めなければならない。

そして、川上先生のお話になった内容、ひとつひとつが心に響き、腑に落ちることばかり。自分自身も長く教育の現場に居ながら、なぜこうゆう教師がいるのかと、個人の資質ばかりに目が行っていたように思う。川上先生のお話は、そんな私の目を見開かせてくれるものであった。いくつかポイントになる点にあげてみたい。

そもそも、学校が求める「子ども像」には、人間が自然に持ち合わせるネガティブな側面を許さない傾向が備わっている。

学校目標に示される「子ども像」には大抵ポジティブな表現が並んでいる。

- 心身ともに健康で、明るく元気で素直
- 意欲的・主体的に学び創意工夫ができる
- 感じる心や思いやりの心を持つ

確かに「清らかで明るくいてほしい」とは思うけれども、実際にはそこを求められると苦しい、あるいは、それに馴染めない子どもがいる。

(教室マルトリートメントの定義について長くなるので省略する)

教室マルトリートメントを防ぐために

不適切な関わりを個々の資質の問題にとどめるのではなく、構造的な問題だと捉え直そう。

焦ったときの関わり方のポイント

お互いの周波数が合うタイミングがくる。それを楽しみに待つ。

- せっかちに結果を求めない力
 - 答えの出ない状況でも持ちこたえる力→ネガティブ・ケイバビリティ
- 焦ったときの関わり方のポイント（発達に偏りのある子の特性を生かす）
こだわりを、クラス全体にとって役立つ・必要とされる活動にする。

- こだわりは「他者のためになる活動」に位置づける

- 「ありがとう」と言われる場面

- 「頼りになる」「頼もしい」と認められる・必要とされる役割を作る

子どもにとっての一番のごほうび→笑顔と機嫌のよさをキープできる大人がそこにいること

※詳細は是非、「教室マルトリートメント」川上康則（東洋館出版社）を読んでいただければと思います。

(文責 佐藤幹雄)

○ 精神医学特別講座「ネット・デジタル社会と共存するために」

講師：那須烏山市七合診療所 本間真二郎 氏

本間先生は、医療現場でのさまざまな臨床事例をもとに、現代の病のほとんどが、自然に反した生活に根本の原因があることを示されました。しかし先生によれば、現代のデジタル化の流れは止めようもなく、私たちは益々自然か

ら離れた環境に取り囲まれてしまうようです。そのような中で、病むことなく元気に生活するために、先生は、「自己軸を大切にすること、自然と調和した生活を営むこと」の大切さをお話ししてくださいました。

先生によれば、大切にすべき自己軸とは「自分でなければならぬ自分・他人と取り替えのきかない自分になること」「自分で、調べ、考え、決め、行うこと」で確立するとのこと。人はその自己軸があることで、外界や他者とうまく調和でき、「自他の統合」という成長の課題を達成できるのだそうです。自分を含めて、情報に流されがちな子どもたちを見るにつけ、全くだと腑に落ちることばかり教えていただきました。

この他にも、博識な先生のお話には、興味深いことが数多ありました。特に、これからのAIが発展した近未来についてのお話は、SF映画を見るようで、興味津々でうかがいました。多岐にわたるお話の詳細は、残念ながらここでは書ききれぬところですが、「自然と調和しながらもそのためのデジタル技術を使いこなし、主体性のある自己を自由に表現し、他者とも協調できる子どもたちを育む」という宿題を、子育てにかかわる者としていただいた思いがする講演会でした。

(文責：原沢大生未)

○ 冬季特別研修会「子ども達のゲーム・SNSの世界」

講師：有限会社橋本屋 伊藤夏美 氏

令和5年2月25日、参加者は20人ほどでしたが、教育会館小ホールにノートPCやタブレットを持参して集まり、冬季特別研修会が開催されました。講師は、橋本屋ICTインストラクターのチームリーダー伊藤夏美さんです。橋本屋さんは、県北地区を中心に学校のICT機器の配備やネットワーク構築、ICT支援員派遣を行っており、地域の学校とは密接な関わりをもっている業者さんです。さらに、情報安全教育のサポートをするためのチームもあり、保護者向け、児童・生徒向け、教師や教育委員会職員向けなど、多様な講座のニーズに応じてきた実績があります。

私の学校や地区では橋本屋さんのお付き合いはありませんが、町をあげて教育での効果的なICT活用、学校業務も含めたDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する一方で、「〇〇っ子スマホ・ケータイ宣言」（町教育委員会・町小中学校長会・町PTA連合会・町青少年健全育成実施委員会などが共同）を制定し、町内小中学校統一で中学校の定期テスト期間に併せて「ノーゲーム・ノーネット週間」を設定して、学習・読書・手伝い・団らんを推奨しています。さらに、小学校1年生から中学校3年生までの9年間で、共通で必ず履修する積み上げ型の情報安全教育プログラムがあります。定期的な保護者への啓発・注意喚起に、親子での情報モラル教室なども開催されています。

しかし、異なる学校間、他市町・他県の生徒等も関わった大きなネットトラブルや学級内の些細なもめ事、そして何と言ってもネット・ゲーム依存、依存傾向とそれに伴う家庭の混乱や生活の乱れ、不登校・登校しぶりなど、問題や懸念は尽きません。学校では、今、子どもの問題状況のアセスメントとして、ネット・ゲーム利用の実情とそこへの保護者の関わりや姿勢、SNSやアプリ・ゲームソフトのどれに傾倒しているか、オンラインで誰と繋がっているかなどの把握に努めます。子どもの理解と援助方針の策定、医療との連携など支援体制構築に欠かせないからです。そんなわけで、子どもの教育、支援にかかわる教職員や相談員・カウンセラーは、子ども達が夢中になり、相当な時間を費やし、ときにその沼にはまっていき、闇に落ちていく「ゲーム・SNSの世界」を知らずして、的確な実態把握も適切な援助もあり得ないのです。

さて、研修会に話は戻ります。前述の通り、学校におけるICT活用を総合的にサポートする会社さんのノウハウを駆使した講座ですから、「情報モラルと情報リテラシー」、「情報モラルの種類」、最新の「ネットトラブルの種類」が明解に示され、解説され、ネットトラブルの事例もたくさんわかりやすく紹介されました。長時間利用の沼にはまりやすい子どもの特徴や家庭環境などについても、知見をいただきました。1日の研修だったので、午後には、情報モラル学習コンテンツの紹介があり、「子ども達がトラブルに遭わないための学習指導」を検討するグループワークも行いました。必要感をもったエキスパートの集まりですから、有意義な学び合いになったことは言うまでもありません。



最後の研修のまとめ、あいさつで、支部理事長の柴先生も話されていましたが、今後、withコロナとともに、with

ネット（今後益々発展し、AIやメタバース・アバターなどが普通となる Society5.0に移行）ということが、子ども達から切り離せません。端末等のハード、通信やゲーム・アプリのソフトの各企業が、子ども達の健全育成を最優先に考えてくれればよいのですが、残念ながらそれは期待できません。多くの恩恵をもたらす一方で、脆弱な家庭の子ども、依存しやすい特性のある子ども達は、一層多様で重篤な問題に陥っていく懸念があります。未来ある子ども達の教育に携わる我々が、「改訂生徒指導提要 第11章」も手がかりに、この分野で取り残されず、学び続け、実践を重ねていかなければなりません。ネットとうまく付き合い、効果的に活用し、問題を未然に防止できる子ども達を育て、問題の早期発見や適切かつ迅速に対応できることが求められます。

新年度の支部研修計画には、まったく同じテーマではないものの、ネット・ゲーム依存を含む医療分野の講演の企画も入る予定です。多くの学会員の参加・学びを期待しています。

（文責：松本直美）

○ 栃木県支部事務局からのお知らせ

(1) 令和5年度 事業計画

開催期日	事業名	会場	備考
6月3日(土) 総会 13:00 講演 13:30	【第34回総会 およびカウンセリング特別講座Ⅰ】 演題：「起立性調節障害」～医療から見た不登校～ 講師：八木 正樹氏（菅間記念病院 小児科医師）	教育会館 大ホール	参加費 無料
6月10日(土) 13:30～16:00	【第14回とちぎ教育相談カフェ】 「内容未定」	青少年 センター	参加費 1,000円
8月5日(土)～ 8月6日(日)	【日本学校教育相談学会第35回総会・研究大会（新潟大会）】 ※第三次案内及び学会ホームページで詳細案内があります	新潟県	
9月9日(土) 13:30～16:00	【第41回支部研究発表会】 コメンテーター：藤浪 直紀氏（相談学会支部理事）	青少年 センター	発表者 募集
10月14日(土)	【第15回 とちぎ教育相談カフェ】 テーマ：「子どもの言い分どうきくの？」 講師：馬場 友治氏（学会スーパーバイザー）	青少年 センター	参加費 1,000円
11月11日(土) 9:00～12:00 13:30～16:00	【支部認定委員会】 【第42回支部研究発表】 コメンテーター：馬場 友治氏（学会スーパーバイザー）	青少年 センター	発表者 募集
12月2日(土) 13:30～16:00	【カウンセリング特別講座Ⅱ】 演題：「見えない心と想う心と」 講師：長久保 勇輔氏 (宇都宮カウンセリングオフィス、作新学院大学講師)	教育会館 大ホール	参加費 無料
令和6年 2月3日(土) 13:30～16:00	【精神医学特別講座】 演題：「性の多様性をめぐる学校教育の課題」 講師：渡辺 大輔氏（埼玉大学准教授）	教育会館 大ホール	参加費 無料
令和6年 2月17日(土) 10:00～16:00	【冬期特別研修会】 演題：「 未 定 」 講師：杉田 憲一氏（とちぎメディカルセンターしもつが医師）	青少年 センター	参加費 会員： 円 一般： 円

- (2) 令和5年度より、学会本部からの直接メール配信サービスが開始されます。
つきましては、メールアドレスの登録をお願いします。

方法：jasc.tochigi@gmail.com まで
登録したいメールアドレスと氏名をメールする

* 職場ではなく、ご自分のパソコンまたは携帯メールアドレスをご登録ください。

- (3) 研究紀要(第18集)発行予定です。原稿を募集いたします。
締め切りは年内の予定です。奮ってご応募ください。様式は以下の形式で作成してください。ホームページからも形式をダウンロードできます。

紀要原稿の形式

○○○タイトル (MS 明朝 12pt)
○○○サブタイトル (MS 明朝 12pt) *サブタイトルがある場合
○○○氏名 (所属) (MS 明朝 12pt) *事例の場合、所属で特定されないような配慮を

1 (本文) 2 3 字 2 段組 MS 明朝 10.5pt ○○○○○○ ○○○○○○○○ 注釈・付記・文献なども 2 段組に 2 3 字 MS 明朝 10.5pt

(4) 新会員勧誘のお願い

新規会員の勧誘をお願いいたします。入会希望者がいた場合、本人に事務局までメールを送っていただく。手続き関係書類は事務局から本人に送付いたします。

日本学校教育相談学会栃木県支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館
栃木県連合教育会相談部内
日本学校教育相談学会栃木県支部事務局 吉川修司・佐藤佳子
TEL 028-627-5682 FAX 028-627-5682
E-Mail : jasc.tochigi@gmail.com
ホームページ : <http://t-soudan.sakura.ne.jp/index.html>
(会員の部屋パスワード tb-jascg3123)
発行責任者 柴 一彌
広報担当者 馬場友治・佐藤幹雄・松本直美・平峰孝二